



# Satake News

## 社長年頭あいさつ

この挨拶文が掲載されるサタケ新聞の発行される時は、季節柄大変厳しい寒さの頃と思われます。どうか体に気をつけ元気で過ごされることをお祈り申し上げます。

さて旧年中は皆さんに大変活躍していただき、大変良い成績で終わることが出来ました。これも皆さんの努力の結集で在り大変感謝するしだいです。

今年のさらなる目標への道筋が始まっており、皆様への努力をお願いする次第です。内装材への要望は、年々深まっておりさらなる発展が期待される良い環境と思われまます。会社にとっても、皆様にも今年一年より良いとしであることをお祈り申し上げます。



## 今年の抱負

### 東京店 中野課長

各店の皆様方 昨年はいろいろとありがとうございました。今年の抱負として、3つの力をあげさせていただきます。

**第一の抱負…行動力**  
昨年、ご迷惑お掛けしてしまった結果を基に反省をし、営業の3原則・当社の5つのサービスを基本精神にし、後悔しない日々を過ごす事を第一の抱負としております。こうしておけば良かった・動いておけば良かったという日がない様、一日を大事にし、行動して参ります。

**第二の抱負…進む力**  
新年会場にて、古屋部長からご指導にありました「確実に一歩ずつ」を遂行していく事です。東京店においては、一歩踏み出す事が大切な時ですので、後ろに下がる事なく、確実な一歩を歩んでいきたいと考えております。

**第三の抱負…管理力**  
仕事面の管理は、顧客管理や事務所・倉庫管理などがありますが、健康管理についても、大事な管理かと思ひます。体調を崩してしまつては、進む事ができませんので、各店の皆様方も健康管理には、十分にお気を付け下さいませ。各営業所の皆様方 今年一年 どうぞ宜しくお願い致します。

### 埼玉店 高橋課長

日々納品依頼ご協力頂き有難う御座います。埼玉店3カ年計画、目標達成に向け重要な今期です。現状スタッフ全員が前向きな意識の基、発言・行動。モチベーションを高めあい、競い合い、売上目標達成を必須とし、謙虚な気持ちを持ち合わせ、日々を大切に仕事に取り組んで行きます。2012年Tour de France覇者 チームSky如く 各店毎 協調体制で走破しよう！各店毎 協調体制で走破しよう！

### 土浦店 綿引課長

皆さん、毎日お疲れ様です。新年を迎え、早いもので1月も半ばを過ぎましたが、年の初めというのは、やはり気分的にすがすがしいもので、改まった気持ちになります。さて、昨年は年間目標を達成出来ました。しかし、我々のポテンシャルはこんなものではないというところを業界全体に見せつけようではありませんか。今年の目標も決まりました。来年、再来年へと更なる高みを目指して気を緩めることなく、常に攻めの姿勢を忘れずに積極的に業務に取り組んで参りたいと思ひます。

### 城西店 秋山課長

中途入社して15年目になろうとしています。幸い御客様や会社上司にも恵まれ日々学ばして頂き、今まで多少なりとも少しは成長してこれたかと思ひ、会社には非常に感謝しております。今年、昇進させて頂きました。今年から管理という職も重要視してかなくはなりません。全体を見るという事、客観的に見るという事を勉強していかなければなりません。昔、現役時の中田英寿の言葉で試合プレイ中でも冷静で物事を主観的にも客観的にもとらえる事ができるという。また、サッカー場の上から見て11人のプレイを把握する事ができると言った事がある。自分に会社に置き換えてみて、その役割を今後十分果たせるようにしていきたいと思ひます。また、所属長としての自覚とお店全体を盛り上げるように努めていきたいと思ひます。

### 総務 安部課長

入社して30年になりました。多くの方々と出会うことができ、またいろいろな経験をさせて頂きました。「努力を続けることは、いつか実になる」と信じています。実になる確率はあがると思ひています。知識を得るために努力を続ける人、ちからを付けるために努力を続ける人に出会うこともできました。今年もきっとよい出会いがあると思ひています。昇進に関しては、社長、会長、部長、上司の方々、同僚、後輩に感謝をして、そして私も知識を得て、社員の方々の健康をたもつ為の努力を続けていきます。今年の抱負は、資格をとるための努力を続けることです。



**秋葉原風景『円安』**  
秋葉原は為替レートに敏感な街です、円安になると海外から訪問者にとって安く買い物出来るので街が活気できます、編集者Sは円安になるとメモリなどPCパーツが値上がるので少しがっかりします。

## 被災地『南三陸町』を訪ねて

経理部 顧問 前田 茂雄

平成24年11月5日大宮発11時6分のやまびこ57号に乗って仙台に向かった。

目的は仙台在住の友人T氏から『東日本大震災の被災地を是非一度見てほしい』という話があり、南三陸町を訪ねて被災地を見聞きて、惨状を目に焼き付けるところにあった。

彼も被災者で『義捕金もさるながら、被災地に来て惨状を見てもらうことが更に喜ばしい』と言っていたので、意を強くして仙台に向かったのです。

そして、仙台駅の駅中の食事処で仙台名物『牛タン塩焼定食』を食した後T氏と共にT氏が予約したホテルのバスで南三陸町に向かった、町まで2時間余バスに揺られて、車窓から見える惨状には驚くばかりであった。ホテルについて更にびっくりしたのは、①ホテルの部屋から見下ろすと眼下に波静かな太平洋が見え、当ホテルは海沿いの強固な岩盤の上に建っておりガラス一枚割れなかったことと②1,300名収容可能で日曜、平日を問わずほぼ毎日稼働率が90%以上とことである。これは被災地を見てほしいと被災者の方ニーズと被災地以外の方が



南三陸町車景

是非一度見たいと言うニーズが一致したのか、旅行社が企画した結果かわかりませんが、喜ばしいことだと思ひました。

次の日は当ホテルのバスで『語り部付』の南三陸町内一周ツアーに出かけました(一人500円)。語り部は当ホテルの社員で勿論被災者ですが、一周一時間の間、自らの家族、同僚、上司、家のこと、行政機関のこと、諸施設の惨状を語り続けました。勿論私達は車窓から一般住宅が全滅状態のなか仮設住宅、仮設役場、仮設病院の説明を受けつい涙が出る状況が続きました。

最後のころ、当日は雨だったので車窓から写した『防災対策庁舎』(写真)を掲載しますが、26歳のお嬢さん(この年結婚予定だった人)が最後まで防災マイクで『早く高い所に逃げて下さい』とマイクを離さず、命を落とした場所がこの庁舎です、語り部がこの話をした時バスの中の大半の人が涙を込み上げていました。そして私はバスの中で『合掌』。



防災対策庁舎

最近では、宮城県だけでなく、風化させないためのボランティアによる語り部がいるそうです。そしてバスツアーによる被災地視察が増えているとのこと。

皆さんも機会があったら是非一度被災地へ。南三陸町を訪ねての私がT氏に言った言葉(残念ながら)『南三陸町の完全復興までは十年かかるな!』